



第50回滋賀県消防研究会 最優秀賞・優秀賞



消防研究会とは、消防機器の改良や開発等について消防職員が発表し、消防職員の資質の向上と消防の発展に広く寄与することを目的として実施されています。

この度、令和5年7月4日（水）に滋賀県消防学校にて第50回滋賀県消防研究会が開催され、消防司令補 藤田隆行が最優秀賞を受賞し、消防副士長 保海翔平が優秀賞を受賞いたしました。

〈発表内容〉

【最優秀賞】

・消防司令補 藤田隆行

「健康被害を考慮した防火フードの改良」

防火フードとは、放射熱や強烈な熱から火災現場で活動する隊員の頭、顔、首を保護するものであり、従来は首元に着用するため熱中症の危険がありました。しかし、防火フードを空気呼吸器に付属している面体に取り付けることができるようにすることで、首元のヒートストレスがなくなり熱中症対策ができ、さらに「活性炭フィルター」を差し込むポケットを設け、フィルター交換が可能な防塵マスクとして使用できるようにすることで、VOC等の有害物質から隊員を守ることが可能となります。

以上のように、現場で活動する隊員の健康被害を考慮した防火フードの改良を考案し発表しました。

「健康被害を考慮した防火フード」について



面体に事前に取付可能



防塵マスク機能



【優秀賞】

・消防副士長 保海翔平

「消防ホースを活用したボートカバーの開発」

近年、豪雨や台風による浸水等の災害が全国的に頻発しており、そのような現場ではゴムボートでの活動が必須となります。しかし、鋭利な瓦礫や流木等の漂流物によりゴムボートが破損してしまう恐れがあり、活動時には隊員が漂流物を手でかき分けながら進む必要がありました。

そこで、漂流物からゴムボートを保護するボートカバーを考案しました。

カバーの素材は、耐久性が高く、切創に対して強い消防ホースを活用します。消防ホースをつなぎ合わせ、船首と船底を保護する構造とし、消防ホースは引きずりや屈曲にも強いため、あらゆる障害物から船体を保護できることに加え、足場が悪い環境でもゴムボートを破損させることなく、安全に搬送することが可能となります。また、使用する消防ホースは、現場や訓練で使用できなくなり廃棄にする消防ホースを再利用することで、最小の経費で最大の効果が得ることができます。

そして、ボートカバーを作成する際に使用する型枠や作成方法等をホームページに掲載することで、当消防本部のみならず、全国の消防本部や防災組織の方々への普及啓発が行えます。

以上のように、消防ホースを活用したボートカバーを開発し発表しました。



★以上の2作品は第63回全国消防長会東近畿支部消防研究会へと駒を進めます★